

活発な
商工業

Active business
and
industry



グリーン・ロジスティクス・パーク鳥栖トラック待機場

いろいろな企業が
集まっているから、
就業の選択肢も
増えます。



産業団地(鳥栖北部丘陵新都市)



昭和46(1971)年ごろの轟木工業団地

古くから活発な商工業 生産・物流の拠点として発展

江戸時代に長崎街道が整備されたことで「人・もの・情報」が鳥栖地域に集結。配置売薬などが発達し、商工業発展の礎が築られました。現代は、産業団地の造成などにより多数の企業が立地しており、今も昔も商工業が活発です。

多くの企業が集まるワケが、このまちにはあります。

九州各地へのスムーズなアクセスが可能な鳥栖市には多くの企業が立地しています。その背景には、抜群の交通アクセスのほか、豊富な水資源と労働力があります。

■豊富な工業用水の安定供給が可能

九州一の大河・筑後川水系の宝満川からの取水により、水資源が豊富です。上水道は給水を開始した昭和42年以降、給水制限をかけたことはありません。

佐賀県東部工業用水道		上水道	
給水地域	佐賀県東部	水利権	40,500 (m ³ /日)
給水能力	60,000 (m ³ /日)	ダム取水権	12,000 (m ³ /日)
給水余力	27,574 (m ³ /日)	給水能力	40,100 (m ³ /日)
		給水余力	16,600 (m ³ /日)

■労働力人口の充実

鳥栖市の人口は、市制施行以来、着実に増加しており、今後も人口増加が続くことが予測されています。また、福岡都市圏や久留米都市圏に隣接し、交通アクセスが優れているため、豊富な人材を確保できます。

労働力人口

約151万人

(半径20kmの人口)
※2015年国勢調査

2030年の鳥栖市人口予想

4.6%増 (2015年比)

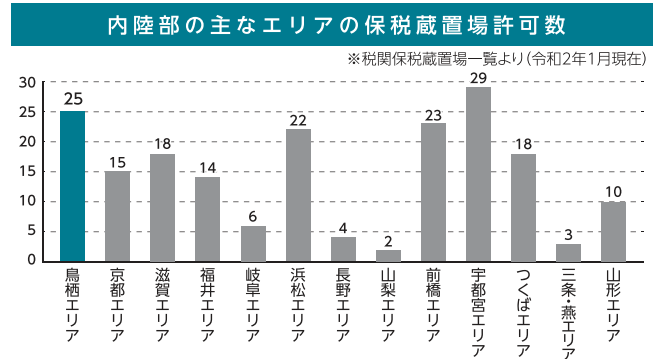
※国立社会保障・人口問題研究所推計より

2015年10月人口

72,902人

■外国貿易も視野に

交通利便性に優れた鳥栖市は、外国貿易の拠点である博多港まで約30分でアクセス可能です。また、鳥栖市を含む長崎税関久留米出張所管轄内には、輸出入貨物の流通効率化が図れる「インランド・デポ(内陸保税蔵置場)」が25カ所あり、内陸部では国内トップクラスの数を誇ります。



■鳥栖市の産業団地位置図



- ① 轟木工業団地(分譲時期:昭和38年~昭和44年)
市内初の工業団地。主に製造業が立地。
- ② 鳥栖商工団地(分譲時期:昭和53年~平成元年)
製造業、倉庫業、卸売業など100社以上が立地。
- ③ 鳥栖西部工業団地(分譲時期:昭和63年~平成2年)
先端技術導入の受け皿として造成。製造業が立地。
- ④ 鳥栖北部丘陵新都市(分譲時期:平成9年~)
製造業、運輸業のほか、大型商業施設、研究施設が立地。
- ⑤ グリーン・ロジスティクス・パーク鳥栖(分譲時期:平成18年~平成25年)
九州の物流拠点として流通関連企業が立地。
- ⑥ 鳥栖西部第二工業用地(分譲時期:平成23年~令和元年)
市初の単独整備。製造業が立地。